



TITLE:

教室通信

AUTHOR(S):

北野, 正雄

CITATION:

北野, 正雄. 教室通信. Cue 2009, 22: 61-61

ISSUE DATE:

2009-09

URL:

<https://doi.org/10.14989/108649>

RIGHT:

教室通信

電気電子工学科長 北 野 正 雄

今年度より電気電気工学科長を務めることになりましたので、ご挨拶を兼ねて教室通信に寄稿させていただきます。前任の佐藤亨教授には初代の公選制学科長として3年にわたり、新しい体制づくりに尽力いただきました。ここでは、姿を見せつつある成果の一端を紹介させていただきたいと思います。

まず、教務委員会関係では、カリキュラムの本格的改訂が進んでいます。とくに、高校までの教育内容のレベルと、大学での研究分野の多様化を考慮し、3年生までは共通性の高い基礎科目を精選して配置するよう方向づけがなされています。今年度の新入生から、この新カリキュラムでの授業が実施されています。年次進行にしたがい、新カリキュラムの名にふさわしいプログラムを完成させるべく各担当教員が最後の仕上げに取り組んでいるところです。

新入生向けの教育改善の新しい試みとしてエレクトロニクス・サマーキャンプを実施しています。与えられた課題達成に向け、数日間かけて、チームで取り組むというもので、夏休み直前に希望学生を募って開催されています。昨年は「柿ピーの柿の種とピーナツを判別、分離するロボットを設計し製作せよ」という課題に23名の1回生が取り組みました。キャンプと言っても、実際に宿泊する訳ではありませんが、時間の制約なしに、3日間チームでプロジェクトに集中するという意味でキャンプとよんでいます。指導にあたった教員、ティーチングアシスタントも含め、大いに盛り上がった3日間でした。詳細は下記のWEBページをご覧ください。今年度からは、1回生向けのコースに加えて、2回生、3回生向けのコースも実施する予定です。なお、優秀チームに送られる賞品は洛友会から提供いただいています。

もう1つの委員会である将来構想委員会は、当初、入試制度改革を目標にしていたましたが、高校生の理科離れ、工学離れ、電気離れ対策に重点を移し、ホームページや出版物による広報、在学生に対するアンケートによる意識調査などを進めてきました。下記の電気電子工学科の受験生向けホームページにその活動の一端を見ていただけるとと思います。名称も企画・広報委員会と改められました。

全学の高校生向けの行事であるオープンキャンパスや中学生向けのジュニアキャンパスに積極的に参画するとともに、学科独自での取組も進めています。高校への出前授業、生徒の研究室への受入れ、高校教員の研修など、高校における理科教育や体験型授業を支援する活動に取り組んでいます。このようなアウトリーチ活動は即効性は期待できませんが、今後ますます重要になると考えられています。また、これらの活動に触れたことが、当電気電子工学科志望のきっかけとなったという例も実際に見られるようになってきました。交流の機会をとらえて、大学での勉学や研究内容を伝えるとともに、偏差値や進学実績などに惑わされずに、各自の興味や適性、志を見つめながら進路を考えるという当然の姿勢を、高校生に真摯に訴えてゆくことが大切だと考えています。本誌cueに連載の「高校生のページ」も活用させていただいており、今年のオープンキャンパスでは、これまでの記事の抜き刷りを特集号とし、参加者に配布することになっています。

今年度は昨年来の経済危機の影響で深刻な就職難に見舞われました。例年の求人の白熱ぶりが嘘のようです。長い目で見れば、一時的な事象かも知れませんが、その年に卒業する学生にとっては人生を左右する大問題であり、何らかの対応を考えてゆく必要があると思われます。

昨今の大学を取り巻く環境には相変わらず厳しいものがあります。経済分野においてさえ制御不可能な副作用を孕んでいる競争原理を教育や学術の世界に単純に当てはめようとする風潮は衰える兆しがありません。その結果、教育や基礎研究など、大学が培ってきた深みや広がり徐徐に失われようとしています。大きい魚をとることばかりに気をとられて、湖が干上がりつつあるのに気づかないかのようです。

皆様には、これら電気電子工学科の取組と直面している課題をご理解いただき、引き続きより一層のご支援とご教示をお願いしたいと思います。

サマーキャンプ：http://www.s-ee.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admission/top/summer_camp

受験生のページ：<http://www.s-ee.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admission/top/>